

「ラーメン屋の前の行列から見つけた日本」

発表者 パクチョロン

先ほど紹介預かりましたパクチョロンと申します。よろしく申し上げます。

私が日本に来て、一番不思議に思ったのが、ラーメン屋に並んでいる行列でした。

日本ではもはやすっかりお馴染みの光景ですが、私にはたかがラーメン一杯を食べるために、朝から一時間も二時間も待つ日本人の姿ができませんでした。このような私の考えを変えた事件がありました。ある日、友達と一緒にラーメン屋の前を通っていたときのことでした。友達にラーメン屋に行列が並ぶのが理解しがたいと話したら、友達から予想もできなかった言葉がかえってきたのです。「韓国でも遊園地に行ったら、3分乗り物に乗るために、2時間も並ぶやろ？」「それとこれとは違うよ。あれはたかがラーメンでしょう？」「ラーメンでも遊園地でも別に関係ないじゃないの？それをする人が幸せになれるのであれば」「うん。まあ、そうだけど…。」私は友達の返事に言葉が詰まってしまいました。よくよく考えてみると、ふと私は今まで自分が持っているある先入観に気づきました。私は今まで特別なことをすることこそが幸せなことだと思っていたのです。そのことに気づいた瞬間、私は私が生まれ育った韓国のことが頭に浮かびました。韓国は70年代から経済成長を遂げるため、効率性、速さ、結果を追い求めて今まで休むことなく走ってきました。そのおかげで今では世界中にKOREAという名前が認知されるようになりました。私はここまで成長した私の母国を誇りに思っていました。

しかし、友達の話聞いて初めて、ラーメン屋の前に並ぶ日本人の姿が理解できなかったのは、もしかしら効率性、速さ、結果だけを追い求めてきた結果、韓国人が失ってしまったものをラーメン屋の前に並んでいる日本人は持っているからだに気がつきました。ラーメンを食べるために1地時間も待つことのように、一見非効率的で、遅くて、特別ではないかも知れないけど、私たちの身近にある日常的なものも大切に思う心の豊かさのようなものです。

そう思うと、ラーメン屋の前に並んでいる日本人の姿が理解できるようになると同時に、日本人の心豊かさをこれから自分も学びたいなと思いました。私の話は以上です。ご静聴ありがとうございました。